

## 斗南となみに生きる

戦いが終わると、家老かろうの一人であつた夫の季昌おつと すえまさは、戦争の責任者せきにんしゃとして東京に送られて細川家ほそかわにあずけられました。リンは夫とわかれて、家族の人々といつしよに斗南となみの地に移り住みました。

斗南での生活はとてもないへんでした。今の青森県あおもりけんの三戸さんのかへのあたりに住んでいましたが、収入しゅうにゅうもなく、食うや食わずのありさまでした。

リンは老母ろうぼをいたわりながら、一家の中心となつて働かなければなりません。山に出かけて桑くわの葉をつみ、それをかますに入れて山道を歩いて運んできました。それを、近くの蚕かいこをかつている農家に売つて、その日の食べ物を買つてくるのでした。安い値ねだんでしか買つてもらえないときもありました。